広報

わかさ

Public-relations Wakasa

1
2013
No. 93

絆

巳年には、蒔いた種が実を結ぶと云われています。
みなさんの絆が巳年に実を結びますように

さぁ、若狭の旬を食べよう

▲山内かぶらちゃんの会のメンバー

11月7日に伝統野菜の山内かぶらの収穫祭が山内集落で行われました。

山内かぶらは、ふくいの伝統野菜のひとつで、ひげ根が多く、少し青みがかったくびが特徴のかぶらです。

このかぶらは、調理しても煮崩れしにくいかぶらですが、表面にエクボがあったり、ひげ根があり調理しにくいという理由で約半世紀もの間、市場からその姿を消していました。

しかし、約半世紀に渡って種採りを続けてこのかぶらを守ってきた生産者の飛永悦子さん（山内）が、地域おこしにつなげようと区民に呼びかけて、「山内かぶらちゃんの会」を設立し、平成23年11月に生産・出荷を再開したものです。

▲収穫したかぶらを手にして眺める児童ら

この日、同会のメンバーや地元の鳥羽小学校の児童らが畑に集まって、青々とした山内かぶらの葉を握り、ゆっくりと力を入れながらかぶらを引き抜いていました。

収穫後には、同会が作った山内かぶら入りのシチューやおにぎり、漬け物などを参加者全員で味わい、参加した鳥羽小学校5年生の竹内陽南さんと玉井あさひさん、中村心優さんの3人は「シチューが美味しかった。給食にも出てくるので山内かぶらを食べたことはあるが、収穫は初めてで楽しかった」と笑顔で話してくれました。

今年の山内かぶらは約400kgの収穫を見込んでおり、町内にある野菜直売所「たいしたもん屋」で販売されています。

伝統野菜って何？

伝統野菜とは、その土地で古くから作られてきたもので、採種を繰り返していく中で、その土地の気候風土にあった野菜として確立されてきたものです。

そのため、古くから地域の食文化とも密接していました。

しかし、野菜の揃いが悪い、手間がかかる、一年を通じて栽培されていないという理由から、大量生産が求められる現代では、生産が減少し、中には作り手がいなくなり、残念ながら失われてしまった野菜もあります。

最近は、地産地消が叫ばれるようになり、その伝統野菜に再び注目が集まってきています。

では、伝統野菜って何がいいの？と思われる方もいると思います。それは、揃いや見栄えが悪いのは、「個性がある」とも捉えられるし、季節限定野菜というのも、「旬が感じられる野菜」と捉えることができます。

伝統野菜には、今の野菜にはない強い香りや、えぐみ、苦み、甘みや旨味など多様な味が備わっており、わたしたち日本人の繊細な味覚を育ててきたといっても過言ではありません。

県内にも伝統野菜はいくつか存在していますが、伝統野菜と呼ばれるためには、100年以上前からその地域で栽培されており、かつ毎年種採りをしているものに限られています。

現在は、20品種がふくいの伝統野菜として登録されています。

●問い合わせ
産業課特産振興販売室
TEL 0770-45-9102

山内かぶらちゃんの会

山内かぶらちゃんの会は、種を守り続けてきた飛永悦子さんをはじめ、山内集落の住民で構成されており、現在6人で組織しています。代表は、飛永悦子さんが務め、栽培技術向上など山内かぶらの発展に向けた活動をしています。

山内かぶらちゃん

これが伝統野菜の“山内かぶら”だ！

若狭町山内集落に伝わる中型のかぶらで、ひげ根が多く、葉は長くしっかりとしており、葉の表面には細かい毛が密生しています。

■収穫時期：11 月～ 2 月頃まで
■収穫場所：山内集落
■販売場所：たいしたもん屋（鳥羽店）

●特徴（葉）
他のかぶらに比べ大きい。漬け物のほ汁物の具としても使
葉も煮崩れせず、しません。

●特徴（肉質）
一般のかぶらに比べて肉質は締まっているので煮崩れしにくい。生では独特の苦味を感じますが、漬け物や加熱調理で旨味に変わります。

●特徴（タグ）
山内かぶらちゃんの会が栽培したという証拠のタグです。会員は、活動時には、このかぶらちゃんのイラストが入ったエプロンを着用しています。

●特徴（ひげ根）
ひげ根を多く持ちます。ひげ根のかぶらは見かけはよくありませんが、栄養を取ろうと一生懸命に生きている証拠です。

テナガエビ使用
熊川葛使用
銀杏使用

川海老のフライ酢橘（すだち）添え
銀杏のフリット
里芋のチップ

もずく使用

帆立（ほたて）貝と海老、もずくのポン酢ソースとコンブ風味ジュレ

瓜割の水使用

穴馬スイートコーンと瓜割の水のスープカプチーノ仕立て

梅ワイン

梅ワイン

比べて葉は長く
のほか、煮物や
も使われます。
ず、風味も落ち

培
会
ら
プ

若狭の食材をフランス料理で食べる!!

福井市にある「レストラン ジャルダン」で山内かぶらや若狭町の食材を使ったフランス料理が特別に出されました。

出された料理は、7皿のコース料理と取り合わせデザート、コーヒー、パンで、それぞれの料理には、山内かぶらや若狭町の食材が使われています。

11月16日に、山内かぶらちゃんの会のメンバーや関係者が同店を訪れ、その味を堪能しました。

同店の代表取締役総料理長を勤める黒味 傳さんは、卓越した技能者として厚生労働大臣から表彰される「現代の名工」に、北陸の西洋料理人として初めて受賞しています。

「レストラン ジャルダン」
福井市文京 4-28-16
ＴＥＬ　0120-01-0026
定休日　毎週火曜日

山内かぶら 使用

山内かぶらのムース
トマトのクーリ エストラゴン風味

山内かぶら 使用

山内かぶらのケースに詰めたオマール海老のグラタン

レストラン ジャルダン
取締役総料理長
黒味　傳さん

伝統野菜の山内かぶらは、野生的なかぶらなのか、料理に使っても非常にパンチ力があるかぶらです。それに、昨年に山内かぶらをいただいたが、今年のものは昨年以上に味が良くなっています。

伝統野菜は、その土地に受け継がれてきた野菜なので、その土地でしか味がでません。それを無農薬に取り組んでいることは、料理人にとって本当にありがたいことです。

今回、いろんな形でまちの人と出会えました。皆さん、本当に一生懸命取り組んでいらっしゃいます。これからも、まちの人たちで伝統野菜など食材を守っていって欲しいと思います。

ン 使用

インロゼのソルベ

若狭牛 使用

牛フィレ肉のエギュイエット
白菜に包んだ牛肉の赤ワイン
煮こみに載せて

まちの話題

※広報紙に「あなた」の写真が写っていましたらご連絡ください。写真をさしあげます。（総務課 TEL45-9109）

ゴールへつなぐたすき（11/3）

▲中継所でたすきをつなぐランナー

第５回のぎくふるさと駅伝大会が野木小学校グラウンドを会場に行われました。

大会は、一般の部は 15km、小学生の部は 7.5km のコースを５人のランナーがたすきをつなぐもので、一般の部と小学生の部を合わせて 17 チームがタイムを競い合いました。

この日は、あいにく肌寒い天気となりましたが、参加したランナーたちは、一本のたすきを次のランナーへつなげようと懸命に走り、中継所や沿道からは「頑張れ！」と大きな応援の声がランナーにかけられていました。

わたしの作品を発表（11/3 ～ 11/4）

若狭町文化祭が、パレア若狭や歴史文化館などを会場にして行われました。

文化祭では、文化協会に加盟する団体や小中学生、一般の方の作品が展示されたほか、民俗芸能や合唱などが披露されました。

来場者は、一つひとつの作品を感心して眺めたり、舞台発表に盛んな拍手を送っていました。

今回の舞台発表では、国内外で公演活動を行っている福原一笛さんを特別ゲストに迎えて篠笛ミニコンサートが行われ、来場者は、篠笛の澄んだ音色に耳を傾けていました。

▲展示された菊の花を眺める来場者

▶手作りの輪投げで遊ぶ参加者

秋の実りに感謝（11/4）

かみなか農楽舎の収穫祭が、農村総合公園で行われました。

収穫祭では、かみなか農楽舎の研修生や卒業生が栽培した野菜などの直売のほか、伝統野菜の山内かぶらを使ったシチューや美方高校食物科の生徒が作ったスイーツが販売され、早いものは昼を待たずに完売する品もありました。

また、大人気の餅つきや新米おにぎり、手打ちそばのテントには大勢の列ができ、子どもたちが笑顔で動物とふれ合うなど、会場は秋の収穫を喜ぶ声で賑わっていました。

環境被害時の連携を強化（11/6）

三方五湖（若狭町・美浜町）と北潟湖（あわら市）が環境被害時の相互応援協定を結びました。

この協定は、湖の環境に影響する被害が発生した場合の応急・復旧対策だけではなく、清掃作業時に職員や住民が参加するなど、交流活動にも取り組むものです。

3 市町は、湖の環境保全を通じてお互いの情報交換や要望活動などを行う三方五湖・北潟湖水質保全対策協議会を設置しており、お互いの湖についてもっと関心を持ってもらおうと今回の協定が結ばれました。

あわら市役所で行われた調印式には 3 市町の首長が出席し、調印後に 3 人は固く握手を交わしました。

▲調印後に固く握手を交わす 3 市町の首長
（左から、山口美浜町長、森下町長、橋本あわら市長）

一流シェフが指導（11/8）

美方高校に一流シェフが訪れ、生徒の創作料理を指導しました。

指導には、福井市にあるレストランジャルダンの取締役総料理長の黒味傳さんが訪れ、食物科の生徒が作る料理を一つひとつ試食し、見栄えや味付けなどについて講評しました。

料理は、同校と町が連携して作った若狭町の食材を使った新しい創作料理で、同校の 3 年生が作った 15 品を試食しました。

黒味総料理長は「若い人たちの発想と感性は素晴らしい。もう少し手を入れることで、きっと良いものができる」と、生徒たちの創作力に感心しながら、さらなる進化を期待していました。

▲料理を試食し、生徒に講評する黒味総料理長

響け！ぼくたちの音楽会（11/9）

第 8 回若狭町小・中学校音楽会が、パレア若狭で行われました。

音楽会は、音楽に対する興味や理解を深める場として行われており、町内小学校の代表と中学校の吹奏楽部から約 300 人が参加し、日頃から練習してきた合唱や合奏を発表しました。

音楽会では、町のイメージ曲である「ビッグステージ・若狭」を参加者全員で合唱して開幕した後、小学校別に合唱と合奏などを披露し、中学校は 2 校の吹奏楽部が合同で演奏しました。

会場には児童や生徒の力のこもった歌声や演奏が響き渡り、惜しみない拍手が送られていました。

▲合奏で琴を演奏する児童

明るく楽しく生きよう（11/10）

▲講演で自身の経験などを語る佐久間さん

平成24年度若狭町青少年健全育成の集いが、パレア若狭で行われました。

集いでは、家族の日作文コンクールの表彰や少年の主張コンクールで嶺南ブロック代表となった橋本はなえさん（三方中学校）の発表が行われたほか、声優や歌手として活躍している佐久間レイさんの講演会が行われました。

佐久間さんは「子育て上手や生き方上手になれなくても」を演題として、母親としての自身の経験などを交えながら、「子育ては、親も子どもも初めてでたいへんなこともあるが、明るく楽しく生きていくことで乗り越えられる」と、前向きに生きることの大切さを来場者に語りかけました。

たくさん生えるといいな♪（11/15）

県の特産ブランド品である越前カンタケの栽培スクールがみそみ小学校で行われました。

越前カンタケは、寒くなると生えてくるヒラタケの種類で、口当たりが良く、また低カロリーで高たんぱくな上、比較的栽培しやすいキノコとして知られいます。

県二州農林部では、越前カンタケを通じて特産品に感心を持ってもらおうと栽培スクールを開催しており、今回、みそみ小学校の1年生と2年生の30人が越前カンタケの栽培に挑戦しました。

児童らは、プランターにカンタケの菌床を入れ、鹿沼土（かぬまつち）を敷き詰めると、たっぷりと水を鹿沼土にかけ、約1か月後の収穫を心待ちにしていました。

▲菌床を入れたプランターに鹿沼土を敷き詰める児童ら

人づくりに役立てて欲しい（11/16）

▲寄贈された図書を手に取る生徒ら

敦賀信用金庫が三方中学校へ約600冊の図書を寄贈し、その寄贈式が三方中学校で行われました。

これは同庫が創立80周年を迎え、社会貢献事業の一環として行われたもので、同庫の思想ルーツが二宮尊徳の報徳思想であることから、人づくりに役立てて欲しいと同校へ図書が寄贈されました。

寄贈式では、森下町長から敦賀信用金庫の松本理事長に感謝状が送られました。

1年生の今井みささんは「読みたい本がたくさんあって嬉しい。たくさん本を読んで役に立つ人になりたい」と話していました。

また、同庫から図書館三方館にも約450冊の図書が寄贈されました。

▲アカペラコーラスグループJINSUKEによるミニコンサート

▲きらりアート展の作品を眺める来場者

福祉と文化の祭典（11/17 ～ 11/18）

福祉と文化の祭典「ハート＆アートフェスタ2012」がパレア若狭などで行われました。

この催しは、文化や芸術を通じて、健康や福祉、障がい者への理解を深めて生きがいづくりを進めるイベントで、今年で6回目の開催となります。

フェスタでは、ふれ愛交流まつりやきらりアート展、似顔絵イラストコーナー、こども鉄棒教室などが行われたほか、京都市の重度身体障がい者授産施設の理事長を務める野中広務さんの講演会が行われ、自身の経験を踏まえた話やコミュニケーションの大切さを語り、来場者は文化や芸術などにふれながらも、心に伝わる福祉の温かさを感じていました。

また、第4回伝統文化のつどいもフェスタの開催にあわせて行われ、闇見神社の豊栄の舞をはじめとする町内4集落の伝統民俗芸能や、石川県輪島市の御陣乗太鼓の迫力のある太鼓演奏が披露されました。

▲講演で自身の経験などを語る野中さん

▲厳かに豊栄の舞を踊る闇見神社の巫女

▲迫力のある太鼓演奏をする石川県輪島市の御陣乗太鼓

交通安全が一番だよ（11/20）

▲買い物客らに啓発チラシなどを配る園児ら

交通安全教室が中央保育所で行われました。

教室では、園児が敦賀警察署の署員や交通指導員から横断歩道の渡り方などを学びました。

園児らは、交通安全のＤＶＤを観賞した後、室内に用意された横断歩道を模したシートの上を、一人ずつが左右を確認し、車が止まったら手を上げて渡っていました。

その後、年長組の園児が近くのショッピングセンターレピアに移動し、署員や県警のマスコットキャラクターたちと一緒に「交通安全でお願いします」と元気な声で買い物客へ啓発チラシを配りました。